

上田市武石診療所のあり方について【答申書】—概要版—

武石診療所は、昭和60年4月に開所し、武石地域の一次医療機関として、近隣病院と連携を図りながら地域医療、在宅医療を進めています。

地域の人口減少とともに患者数も減少傾向にあり、患者数の増加策や診療所の役割・業務形態の見直しなどが求められています。武石地域協議会では、武石診療所を含めた地域医療に対する住民のニーズの把握や武石診療所の現状と課題を検証し、将来的な武石診療所の方向性をまとめました。



武石診療所の概要

所在地	建築年度	延床面積	構造
上田市下武石771番地1	S60	484㎡	1階

1 武石地域の医療の経緯

- 昭和27年 7月 武石村直営診療所開設
- 昭和40年代に医師が不在となり閉鎖
- 昭和58年 4月 依田窪病院附属武石診療所開設
- 昭和60年 4月 武石村診療所開設
- 平成14年10月 診療所増改築（リハビリ室他増築）

2 診療所体制

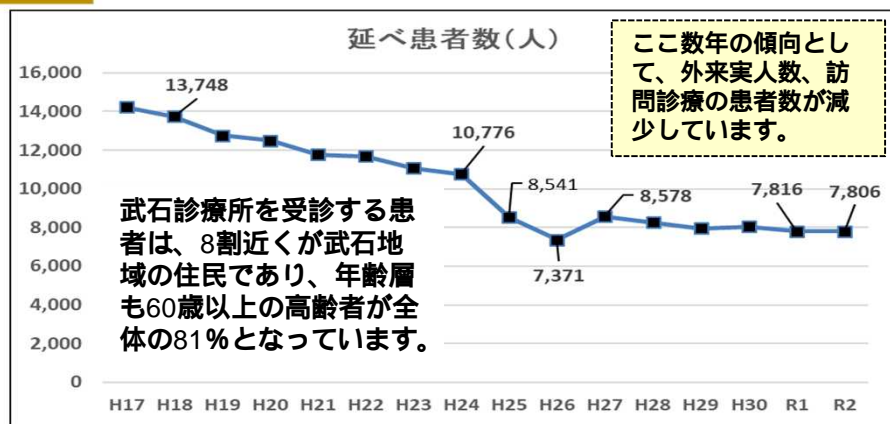
- 【診療科】内科・外科・小児科
- 【医療体制】・医師（廣瀬 聡 医師 H25.4～）
- ・看護師（4名）・理学療法士（1名）・事務員（3名）

3 診療時間

- ・午前：外来診療 午後：往診・訪問 木曜：時間外診療
- ・訪問看護：365日、24時間の宅直体制

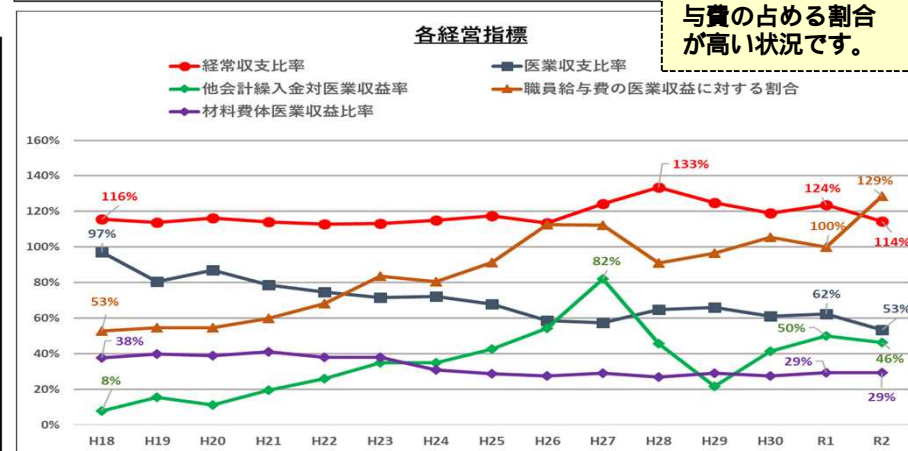
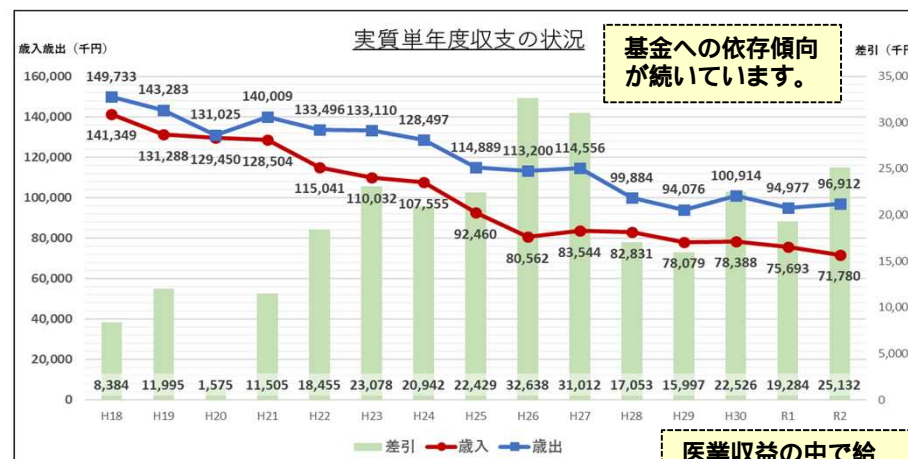


診療実績



経営状況

人口減少などに伴い、患者数、診療報酬ともに年々減少し経営が厳しい状況です。合併以前からある診療所の基金を取崩して運営しており、単年度の収支は、基金繰入金と前年度繰越金を含まないと収入に比べて支出が多く、赤字経営が続いています。



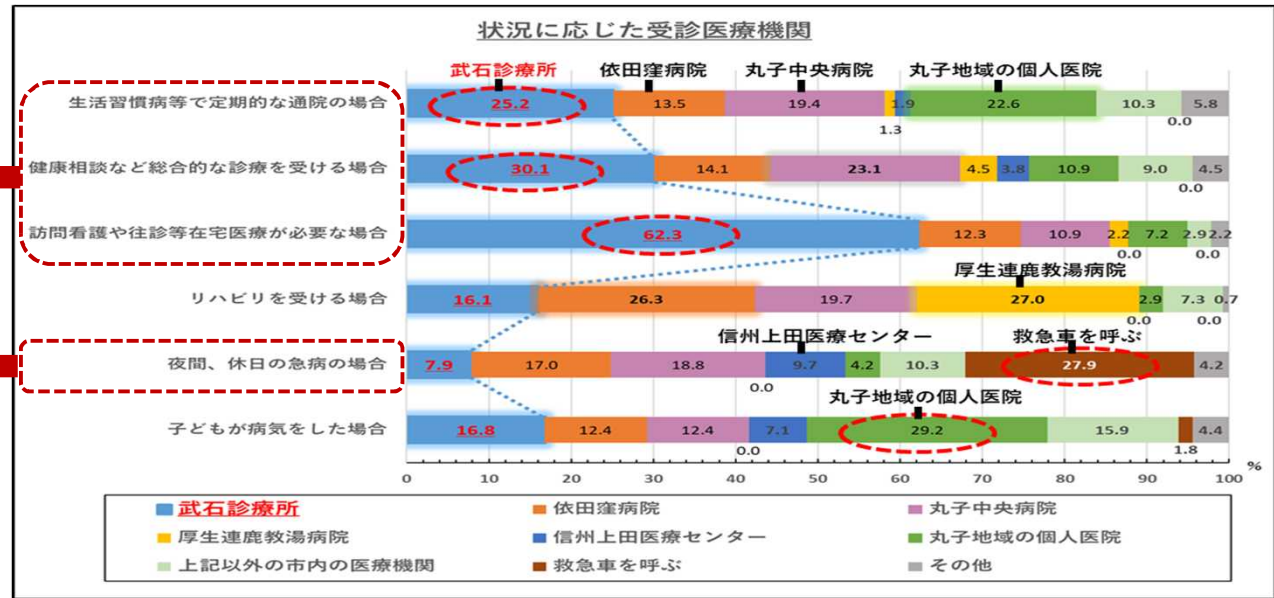


診療ニーズ

状況に応じた受診医療機関では、定期的な通院、総合的な診療を受ける場合、訪問看護や往診等が必要な場合に武石診療所を受診する方が多くいます。**特に在宅医療において武石診療所の役割は大きくなっています。**

夜間や休日などの急病の場合には、3割近くの方が救急車を呼ぶと回答し、このほか、依田窪病院や丸子中央病院といった総合病院を受診する方も3割強ほどいます。

夜間や休日などの急病の場合での武石診療所の役割について、検討をすべきと考えます。



現状と課題 方向付け

- 一人の医師による運営 → 複数人の医師による診療所運営
医師の働き方改革や感染症への対応など一人の医師だけでは限界
- 24時間365日の宅直制度 廃止
夜間休日等の診療ニーズが減少により、宅直制度の見直し
- 診療所事業特別会計の赤字 歳入・歳出の見直
2,000万円/年からの赤字経営により、歳出の縮減が必要
- 診療所基金の枯渇 ふるさと寄附金の活用
2億8,000万円あった診療所基金は、枯渇が予測
- 医療事務の専門性 AI・IOTの活用と業務委託
報酬改定などに対応した、医療事務の専門性の確保
- 調剤業務の複雑化 AI・IOTの活用
200を超える医薬材の管理と調剤業務の軽減
- 施設の老朽化 個別移設計画による
令和7年には、築40年を経過する施設の改築・修繕
- 地域の高齢化と患者数の減少 市民協働
地域の高齢化と患者数の減少に伴う診療収入の減
- 往診、訪問診療の充実 ICTの活用
多様化する診療ニーズへの対応

連携・統合・再編

診療体制の見直し

医師：1
看護師：4
理学療法士：1
事務職員：3

医師：複数人
看護師：3
理学療法士：1
事務職員：1

ICTの活用

窓口業務調剤業務の見直し

地域との協働

電子カルテの統合

改修・改築の検討

基本方針：持続可能な診療所の運営

- 診療所を無くさない -

『依田窪病院との連携と市民協働』

武石地域の医療体制の充実

今後、医療スタッフの継続的な確保が難しくなることが予想されます。また、地域の高齢化や多様化するニーズに対する診療体制の見直しも必要となっています。

こうしたことから、人的な体制整備（医師の複数人体制）を確実なものとするため、**国保依田窪病院との連携を進め、近い将来、医師の確保等から国保依田窪病院との再編・統合を検討するとともに、患者情報の共有化を図るために、電子カルテを共通仕様とし、宅直制度廃止後の患者の不測の事態に備えます。**

また、ICTの活用を進め、往診・訪問診療を補完する遠隔診断やモバイル診療など多様化する診療ニーズに応えていきます。

さらには、地域住民との協働による新たな診療所の運営を模索し、地域のかかりつけ医としての役割を担っていきます。